問題

60歳男性。時々出る鮮血便を主訴に来院した。

現病歴：半年前から時々鮮血便が出ることを自覚していた。元来、便秘気味である。今週、連続して鮮血便が出たため来院した。腹痛は自覚していない。

既往歴：特記事項なし。

現症：身長169cm、体重57kg、体温36.5℃、脈拍80/分 整。血圧134/84mmHg。腸蠕動正常。

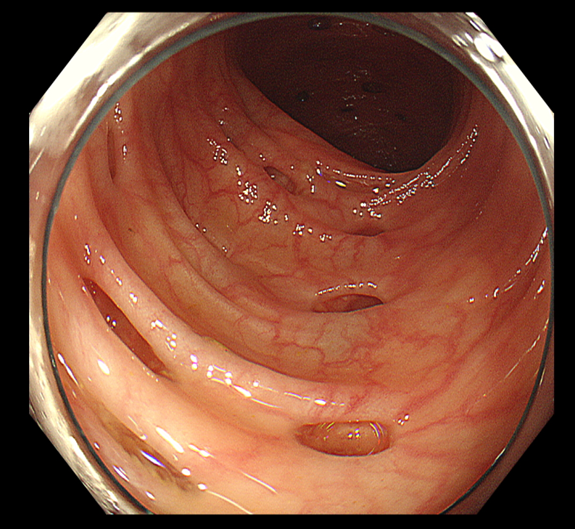
検査所見：尿所見：蛋白（－）、糖（－）、便潜血反応陽性。血液所見：赤血球390万/µl、Hb12.8g/dl

白血球5800/µl、血小板22万/µl。血液生化学所見：総蛋白6.8g/dl、アルブミン4.3g/dl、

尿素窒素22mg/dl、クレアチニン1.0mg/dl、AST 36IU/L、ALT 28IU/L、Na 142mEq/L、

K 3.5mEq/L、Cl 103mEq/L、CRP 0.1mg/dl、CEA 1.2ng/dl。

下部消化管内視鏡検査において、出血源は指摘されなかったが、以下の所見を認めた。



問1

この疾患の特徴について誤っているものを以下のうちから1つ選べ。

a 発生部位としては大腸が十二指腸に次いで多い。

b 穿孔を起こす場合がある。

c 胆石や食道裂孔ヘルニアとの合併が多い。

d 多発して見られることがある。

e 無症状であることも多い。

問2

一週間後、鮮血便が繰り返し見られたため患者が再度来院した。再び下部消化管内視鏡検査を行ったところ、出血源を確認した。この場合の治療として考えられるものを以下のうちから3つ選べ。

a 内視鏡的ポリぺクトミー

b 内視鏡的止血術

c 結腸切除術

d 経カテーテル動脈塞栓術

e 内視鏡的粘膜下層剥離術

問題

54歳男性。慢性的な腹痛を主訴に来院した。

現病歴：半年以上前から時々腹痛があったが気にせず生活していた。最近テレビを見ていたところピロリ菌特集がやっており、自分のことではないかと心配になり受診した。

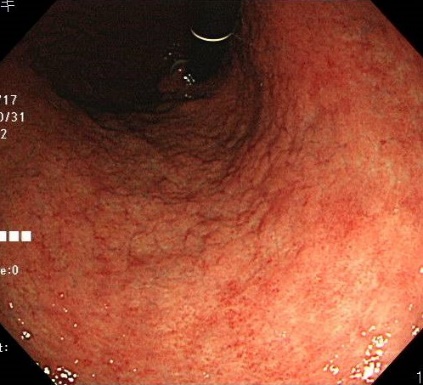
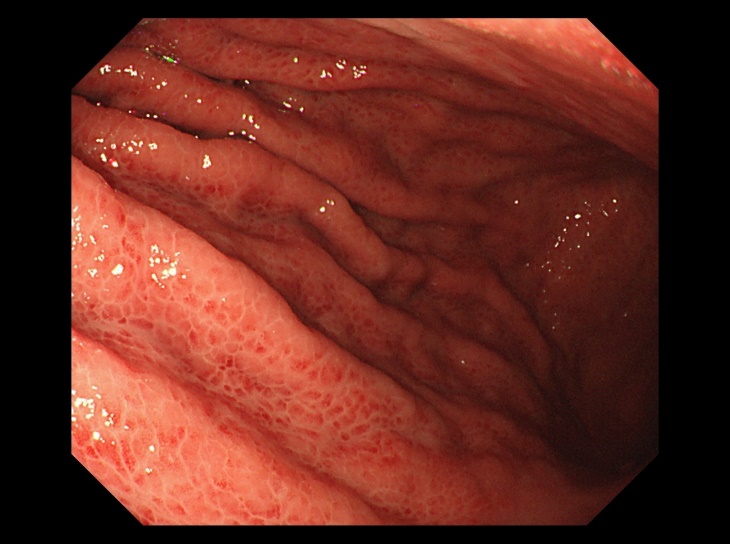
既往歴：特記事項なし。

生活歴：喫煙歴なし、機会飲酒。

現症：意識清明。体温36.5℃、脈拍74/分 整。血圧121/70mmHg。呼吸数15/分。腹部は平坦で、肝・脾を触知しない。直腸診では異常は見られなかった。

検査所見：尿所見：蛋白（－）、糖（－）、潜血（－）。血液所見：赤血球330万/µl、Hb 11.8g/dl、Ht 32%、白血球7200/µl、血小板24万/µl。心電図と胸部X線写真とに異常を認めない。

迅速ウレアーゼ検査陽性。上部消化管内視鏡写真を以下に示す。



問1

画像から読み取れる所見として正しいのはどれか。以下のうちから2つ選べ。

a 鳥肌

b 胃底腺ポリープ

c 粘膜萎縮

d 粘膜肥厚

e RAC

問2

診察・検査を踏まえ、本患者に対して除菌療法を施行した。これについて、Helicobacter pyloriの除菌が原疾患への治療となる疾患を以下のうちから2つ選べ。

a アルツハイマー病

b 特発性血小板減少性紫斑病

c 胃癌

d MALTリンパ腫

e 過敏性腸症候群